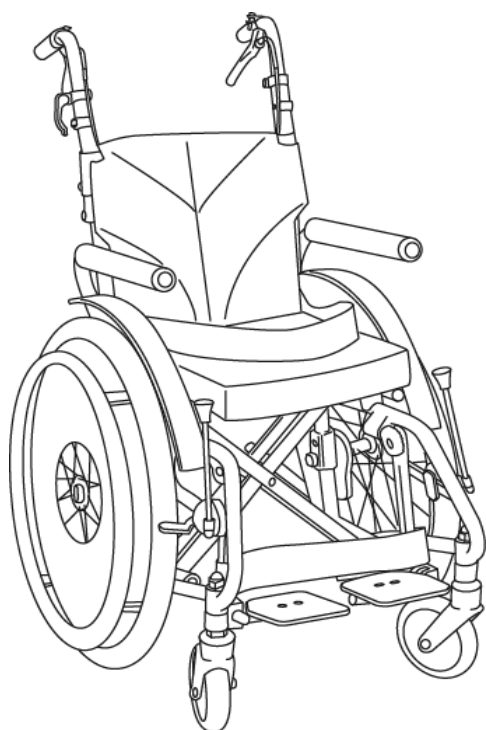


# 取扱説明書

## 子供用モジュール車いす AYCM シリーズ



取扱説明書は適宜更新しております。最新版を弊社ホームページからダウンロードしていただけます  
(<https://www.kawamura-cycle.co.jp>)。

### ● 目次 ●

製品の特徴・使用目的	1
安全に関するご注意	2
1.同梱部品の確認	8
2.安全ラベル	8
3.各部名称	9
4.お使いになる前に	10
5.車いすの揚げ方・たたみ方	11
6.ブレーキの使用法	13
7.肘掛け(アームサポート)の調整方法	14
8.脚部(フットレグサポート)の調整方法	15
9.ステップ板(フットサポート)の調整方法	16
10.シートベルトの使用法	17
11.転倒防止バーの使用法	17
12.背シートの調整方法	18
13.シート奥行き調整方法	19
14.押手高さの調整方法	21
15.その他各部の調整について	22
16.お手入れの方法	23
17.保管について	23
18.車いすの保守・点検	24
19.車いすの主な乗り方	26
20.仕様	28
21.製品記録	29
22.保証	30

このたびはカワムラサイクルの車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
この取扱説明書は、商品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法  
が記載されています。

※ご使用になる前に必ずお読みください。また、ご利用の際には必ず携帯していただくか、  
必要なときにいつでもご覧になれるところへ大切に保管してください。

# カワムラサイクル

## [製品の特徴・使用目的]

この製品は、手動式車いすです。  
これに搭乗しての移動と、休息を目的としています。  
この車いすは一人乗り用です。

### ■自走用をご使用の場合

---

この車いすは、自身でハンドリムを駆動して操作する車いすです。この車いすは、特別な身体保持具、バックサポート（背）の角度調整、座位の姿勢変換（昇降、旋回等）等の機構がない標準形の自走用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこの標準形が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準形が使用に適さなくなることがあります。





# 安全に関するご注意

※ご使用になる前に必ずお読みください。

安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

## [表示マークの説明]

※正しい取扱いに関する必要事項を標示(シンボルマーク)で表しています。

 <b>警告</b>	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。
 <b>注意</b>	取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。
 <b>禁止</b>	してはいけないことを示しています。
 <b>必ず守る</b>	必ずしなければならないことを示しています。

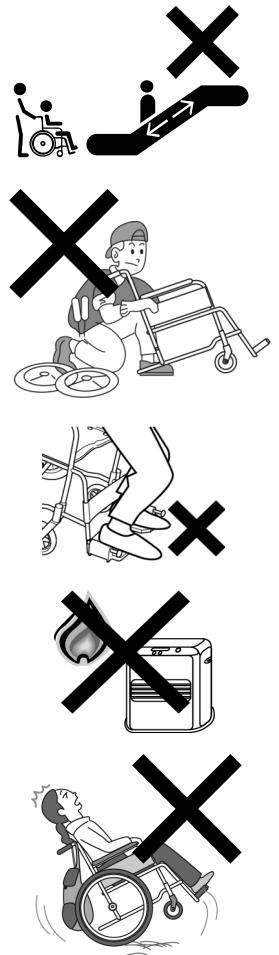


## 警告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。



- エスカレーターでは使用しないでください。  
介助者がいる場合でも、転倒などにより重大な事故のおそれがあります。
- 勝手に改造・分解しないでください。  
強度や耐久性が低下して危険です。また、事故になる恐れがありますので絶対に改造・分解しないでください。  
故意にシートを切断する等の加工を絶対にしないでください。シートを破断したり、加工した状態で使用されますとフレームが歪んだり、破断する原因となります。また、シート取付ネジが歪んだり、欠落すると事故の原因になります。
- 車いすに乗り降りの際は、決してステップ板(フットサポート)の上に足を載せないでください。  
絶対にステップ板の上に乗って車いすに乗り込んだり、降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。
- 車いすを火気に近付けないでください。  
シート部が燃えたり、熱くなりプラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど、危険です。
- ポケットには1kg以上の重いものを入れないでください。  
過度の荷物はバランスを崩し危険です。また、押手に荷物を吊り下げたり、勢いよく腰掛けますとバランスを崩し危険です。絶対に避けてください。

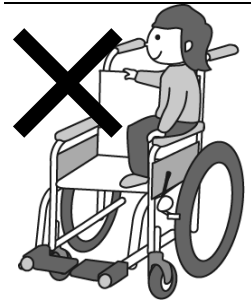




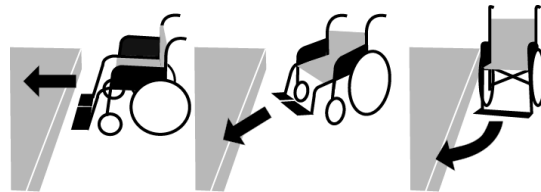
# 警告

取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

- 座シート以外の部分に腰掛けないでください。
- 介助者は、絶対に車いすに乗って介助しないでください。
- 複数的人数で乗らないでください。  
この車いすは一人用です。二人以上で乗ると破損・事故の原因になります。
- 急な坂道(勾配4度以上)では使用しないでください。
- 押手に寄りかかったり、歩行補助として使用しないでください。
- 本説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。  
事故の原因となります。調整が必要な場合はご購入の販売店にご相談ください。
- 大きな段差を無理に乗り越えようとししないでください。
- 小さな段差の前では一旦停止してティッピングレバーを利用して乗り越えてください。  
決して勢いをつけて乗り越えないでください。大変危険です。  
また、フレーム及びキャスト車輪等の損傷を受けます。

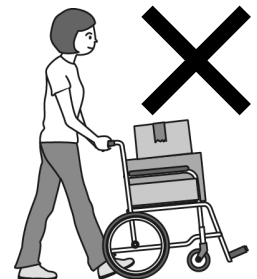


- 発進するときや小さな段差を乗り越えるときには、キャストのタイヤが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。  
斜めに進入したり、キャストタイヤが斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、キャストが破損して事故の原因となる恐れがあり大変危険です。



## 禁止

- 車いすでの走行中は、身体を乗り出さないでください。  
車いすが不安定になり危険です。
- 車いすに座ったまま強い前傾姿勢をとらないでください。  
車いすに座ったまま前方の地面に置いてある物を拾うと、車いすごと転倒し大変危険です。
- 車いす以外の目的に使用しないでください。  
物品運搬・踏み台などに使用しないでください。  
車いすの上に立ち上がらないでください。





# 警告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

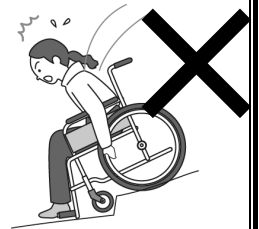
- 車いすを持ち上げる場合、駐車ブレーキをかけ固定されているパイプをしっかり支えてください。

※肘掛けを持たないでください。  
 ※脚部を持たないでください。  
 ※背シートを持たないでください。これらの箇所を持ち上げると、脚部や肘掛け等が車いすから外れるなど、大変危険です。  
 ※利用者が乗ったまま持ち上げる場合は、シートベルトをしっかりと締め、3人以上でフレーム前下部とティッピングレバーを持ってしっかりと支えてください。利用者の身体の一部を持たないでください。



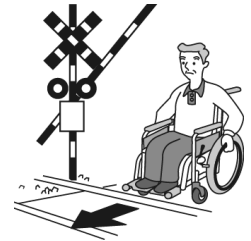
- 道路通行の際は、必ず右側通行してください。また、歩道を通行してください。
- 身体が前のめりにならないよう充分ご注意ください。

段差や凸凹などのある路面等を走行するときは、特にご注意ください。



- 踏み切りの横断やエレベーターの乗り降りの際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。

斜めの角度で進入するとレールの溝にはまって危険です。必ず介助者と一緒にわたってください。



**必ず守る**

- 坂道の上り下りや段差のある場所では、必ず介助者に支えてもらって行ってください。

坂道を上るときは前向きで、下るときは後ろ向きで走行してください。  
 坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

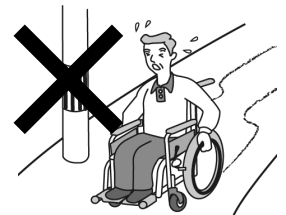
[上り坂]

[下り坂]

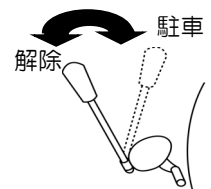


- 傾斜地・坂道での走行は特にご注意ください。

- ・傾斜地や坂道では、車いすが予想外の方向に進む、スピードが出やすいなど大変危険です。
- ・車いすからずり落ちる、前へ倒れるなど、非常に不安定になり危険です。



- 車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。





## 警告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。



- 走行中は、足を必ずステップ板の上に乗せてください。  
足を地面に付けたままで走行したり、ステップ板から外して走行すると、ステップ板と地面の間に足が巻き込まれてケガをする恐れがあり、危険です。  
(足でこいで操作する場合は例外です。)
- 車いすの機能と操作をよく理解し、慣れた状態で介助を行ってください。
- 部品等が破損したり損傷がある場合は、すぐに部品を交換してください。
- 次のような場所では走行を避けてください。
  - ・交通量の多い道路 ・砂利道 ・凹凸のある道
  - ・ぬかるみ ・雪道 ・凍結路 ・防止柵のない側溝や路肩付近など
  - ・崖 ・川土手 ・海岸防波堤上 ・その他危険な場所
- 次のような場合は走行を避けてください。
  - ・夜間 ・雨天 ・濃霧 ・強風 ・その他危険が予想される場合
 夜間は側溝や障害物などが発見しにくくなり危険です。  
雨天は路面が滑りやすくなり危険です。
- 次のような場所では厳重な注意が必要です。  
介助者が付き添い、利用者の身体を支えるなど注意しながらご使用ください。
  - ・狭い道 ・踏み切り ・横断歩道 ・駅のホーム ・エレベーター
  - ・車いす対応の動く歩道 ・車いす対応の福祉車両
  - ・その他危険が予想される場所
- 介助用として使用する場合、シートベルトを必ず装着してください。  
段差などで不意に衝撃などを受けると身体が投げ出されることがあり危険です。また、シートベルトを外したまま移動するとベルトが車輪にからまるなど危険です。

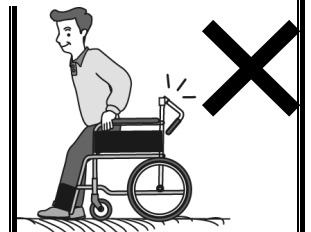
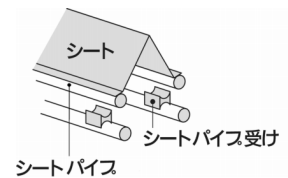


## 注意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。



- シートパイプがシート受けに収まっている事を確認してご使用ください。  
万が一、シート受けから浮いた状態でご使用されますと、フレームが歪んだり、故障の原因となり事故につながる恐れがあります。
- 車いすを投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。  
フレームが歪んだり、破損の原因となります。
- 背折れ部、ブレーキなどの操作レバーに荷物などを掛けないでください。
- 小さな子供に使用させたり遊ばせたりしないでください。
- 背もたれを背折れしたまま使用しないでください。  
後方へ転倒したり、背折れ金具で怪我をするなど大変危険です。
- 急発進、急停車、急な方向転換をしないでください。

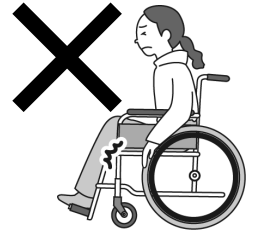


# ⚠ 注意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

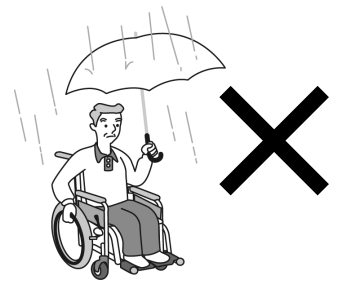
## ●タイヤをもって車輪を操作しないでください。

駐車ブレーキで指をはさむなど、大変危険です。



## ●傘や荷物などを持って、片手で走行しないでください。

傘をさしながら、また片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因にもなります。両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。



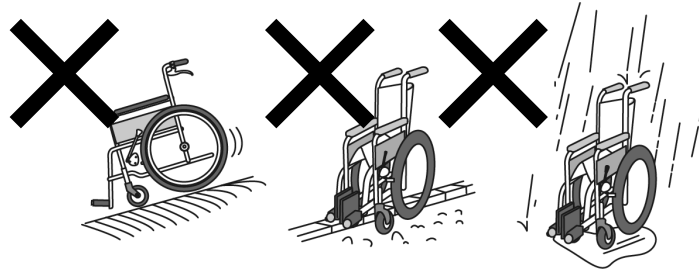
## ●駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。

また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。



## ●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。

- 車道に近いところ
- 路面に段差や凸凹のあるところ
- 海沿いの屋外(潮風の当たるところ)
- ほこりの多い場所
- 非常口、消火器、消火栓の前
- 直射日光の当たる場所(車内も含む)
- ストープなど火気を使用し高温になる場所
- 子供がいたずらをする恐れのある場所
- 事故やサビ・破損の原因になります。
- 人通りのあるところ
- 湿気の多いところ
- 雨、風のあたる場所
- 坂道
- 暑い日や寒い日の戸外



## ●後車輪の空気圧が少なかったり故障した状態で使用しないでください。

ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるなど、危険です。

## ●後車輪の空気圧を適正に保ってください。

適正空気圧は、タイヤの側面に記載されています。(目安として、タイヤを手で押してやや硬い(軟式野球ボール程度の硬さ)に空気を入れてください。)空気圧が高すぎるとチューブが破裂する危険があります。

# ⚠ 注意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。



- ご使用前には各部を点検してください。**  
車いすは“動くもの”ですから、長時間のご使用等により劣化が生じます。  
ご使用前の点検を励行し、異常が見つかったら直ちにご使用を中止してください。
- 安定した姿勢で座ってください。**  
座面深くに座ってください。左右にかたよらずに座ってください。  
また、介助者は、ご利用者が安定した姿勢で座っていることを確認してください。
- 回転している車輪に指を挟み込まないように注意してください。**
- 車いすにバリなどがいないかを確認してください。**  
衝突等により金属・樹脂部にバリなどが発生することがあります。ケガの原因となりますので、充分ご注意ください。
- 認知症の方がご使用される場合は、必ず介助者が付き添ってください。**  
車いすのシート、部品等を飲み込むことや一度かけた駐車ブレーキを不意に解除されること  
がありますので、充分ご注意ください。
- 駐車ブレーキは必ず手で操作してください。**  
足などで操作するとブレーキが破損する恐れがあります。
- 介助者は、利用者が車いすに安全に座れていることを確認してから操作してください。**  
搭乗者の身体の一部または衣服がタイヤ、スポーク、キャスト及び  
地面、建物、通行者に触れたり、はさまったりしないようご注意ください。
- 靴を履かずに足をステップ板に載せてご使用いただく場合は充分ご注意ください。**  
壁や柱で足をケガしたり、足がステップ板から落ちて骨折するなど、  
大変危険です。
- 車いすの乗り降りや移乗など車いすが不安定になりやすいときには、必ず2名以上の介助者が付き添ってください。**
- 最大体重を守ってご使用ください。**  
車いすに表示されている「使用者最大体重」は、積載物も含んだ重さです。
- ご利用者の心身の状況、症状を充分考慮し、適切な介助を行ってください。**



なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラストや内容が一部実車と異なる場合があります。

※以上の注意点以外であっても、無理な使用はおやめください。事故の原因になります。

## ★転倒防止に充分配慮してください。

乗車・降車・移乗の際には不安定になりやすいため、転倒しやすくなります。  
特に3 cm以上の厚みがあるクッションを引く場合は、転倒しやすくなる場合があります。  
転倒しないよう、

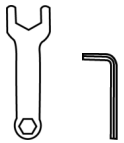


- ・ 駐車ブレーキをしっかりとかける
- ・ 転倒防止金具をご利用いただく
- ・ 車いすの後方を人が支える
- ・ 車いすの後方をベッドや壁に押し付ける
- ・ 手すりを利用する

などの方法で充分配慮してください。



# 1.同梱部品の確認

本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

• 工具 (13 mm板スパナ)	1 本			
• (4 mm六角Lレンチ)	1 個			
• 背クッション	1 枚			
• 座クッション	1 枚			
• 取扱説明書	一式			
• 保証書はがき	1 枚			
• 座奥行き調整パイプ	2 個			

※工具 (13 mm板スパナ) は、キャストの増締めにご利用ください。

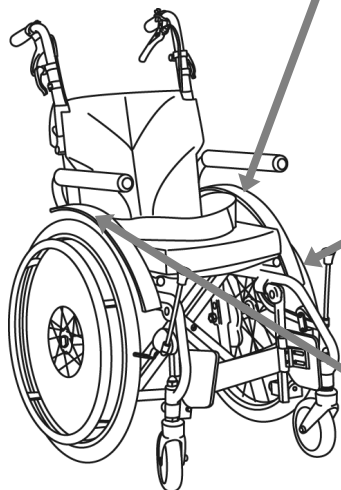
# 2.安全ラベル

- 取扱い上の重要な事項を記載した安全ラベルが貼ってあります。
- 安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
- ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。

左側板 (内側)

**⚠ 警告** 転倒してケガをするおそれがあります

- 取扱説明書はよく読み、必ず携帯してください。
- 乗り降りの際には、必ずステップ板を跳ね上げて、駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認してください。
- 地面に置いてある物を拾う等、強い前傾姿勢を取らないでください。
- 段差などを越える場合、前輪を浮かせ過ぎないでください。
- 最大積載重量以上の重量で使用しないでください。
- アームサポートが可動式の場合は固定されていることを確認してください。
- フットサポートが可動式の場合は固定されていることを確認してください。
- 駆動輪やキャストが外れないことを確認してください。
- 座面以外に腰掛けないでください。



シート(クロス)パイプ付近

**注意** 指をはさまないようにご注意ください

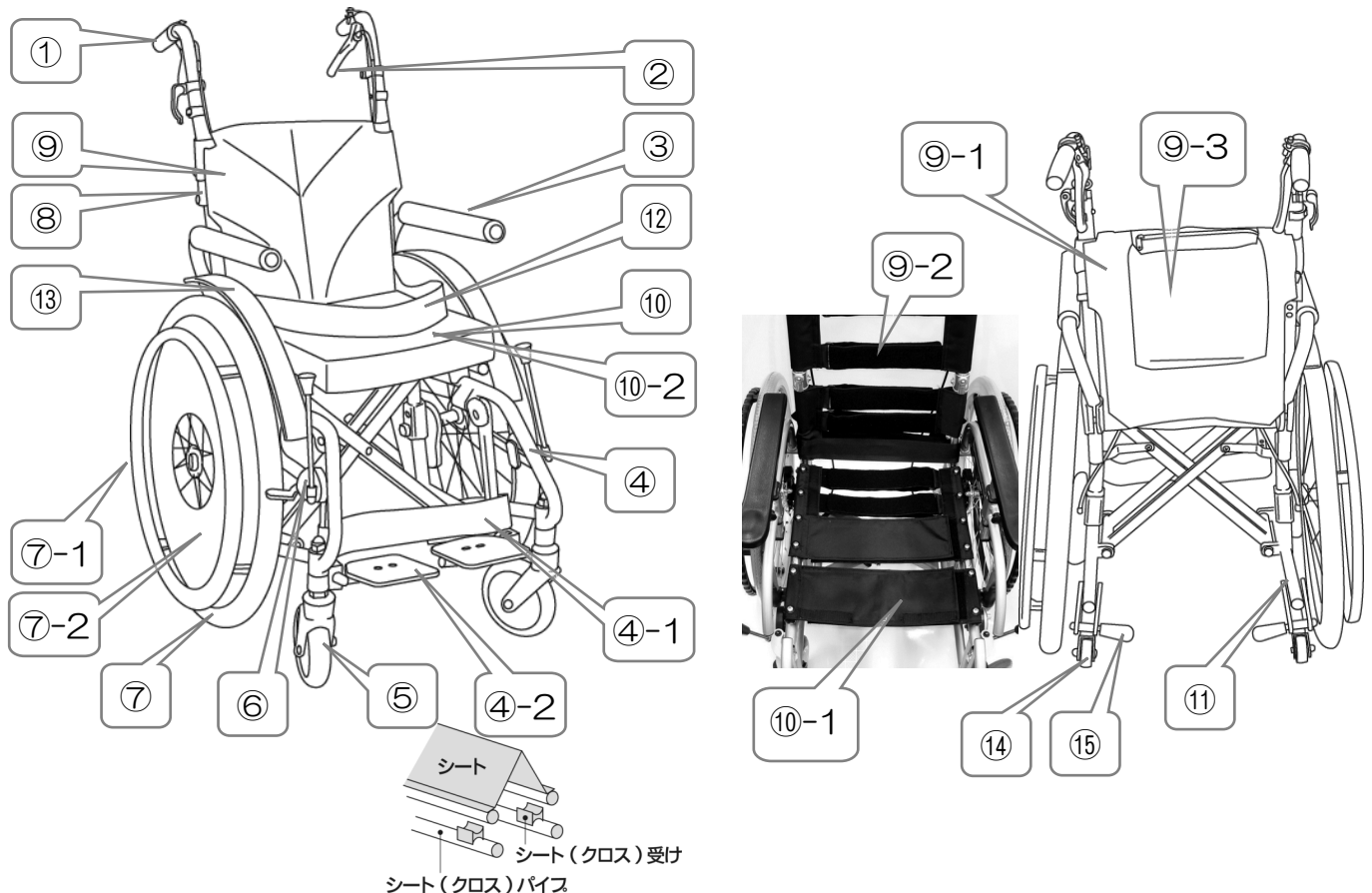


右側板 (内側)

**⚠ 注意** ケガをするおそれがあります

- 可動部分を持って持ち上げないでください。
- 認知症 (痴呆症) の方が使用される場合は、必ず介助者が付き添い、安全を確認し、ご利用ください。
- 座面が確実に固定されていることを確認してください。
- 手や衣服をはさまないようにご注意ください。

### 3.各部名称



① 押手（手押しハンドルグリップ）	介助者が車いすを移動させる際に握る部分です。
② 介助ブレーキレバー	介助者がブレーキをかけるときに握ってください。
③ 肘掛け（アームサポート）	ご利用者が肘を乗せる場所です。
④ 脚部（フットレグサポート）	足を支持する装置です。
④-1 足ベルト（レッグサポート）	足が後ろに落ちないように支えます。
④-2 ステップ板（フットサポート）	足をのせる板です。
⑤ 前車輪（キャスト）	自在に方向転換できる小車輪です。
⑥ 駐車ブレーキ	車いすを駐車する時に使用します。
⑦ 後車輪	駆動輪です。
⑦-1 ハンドリム	手をかけて後車輪を回します。
⑦-2 スポークカバー	車輪内に手や指が挿入する事を防ぎます。
⑧ 背折れ金具	車いすを折りたたむ際、さらにコンパクトになります。
⑨ 背シート	背部が寄りかかる場所です。
⑨-1 背ベースシート	背の張り調整をし、背クッションを取り付けるシートです。
⑨-2 背クッション	背ベースシートに取り付けるクッションです。着脱可能で、ポケット付です。リバーシブルです。
⑨-3 背ポケット	小さな軽い荷物を入れることができます。
⑩ 座シート	座る場所です。
⑩-1 座ベースシート	座の張り調整をし、座クッションを取り付ける場所です。
⑩-2 座クッション	座ベースシートに取り付けるクッションで、着脱可能です。リバーシブルです。
⑪ ティッピングレバー	小さな段差を乗り越える際、ここを踏んで前車輪を浮かせます。
⑫ シートベルト	体がずり落ちないように腰を安定させるベルトです。
⑬ 泥よけ	側板と一体型の泥よけです。泥のはねを防ぎます。
⑭ 転倒防止バー（キャスト付）	転倒を防ぐための補助部品です。
⑮ 転倒防止ロックレバー	転倒防止バーをロックしたり、解除します。

## 4.お使いになる前に

車いすを使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。

### <装着品の確認>

- 背ベースシート、座ベースシート、足ベルトは、しっかりと固定されていますか？
- 背クッション、座クッションは、しっかりと取付けられていますか？
- 背折れ金具は、しっかりと固定されていますか？
- 肘掛けは、しっかりと固定されていますか？
- クロスは、しっかりと受けに収まっていますか？
- 脚部は、しっかりと取付けられていますか？
- ステップ板は、しっかりと取付けられていますか？
- 泥除け、側板は、しっかりと固定されていますか？
- 押手は、しっかりと固定されていますか？

### <後車輪の確認>

- タイヤに空気が充分入っていますか？（タイヤを指で押しても容易にへこまないか？）
- ハルブが緩んでいませんか？
- タイヤにキズがありませんか？異物が刺さっていませんか？
- タイヤの溝が充分残っていますか？変形していませんか？

### <ブレーキの確認>

- 駐車ブレーキ（及び制動用ブレーキ）が正しく作動しますか？
- ブレーキをかけた状態で後車輪が回転しませんか？

### <肘掛け（アームサポート）>

- しっかりと固定されていますか？
- 左右同じ高さですか？
- 外側や内側を向いていませんか？
- キズや亀裂等はありませんか？

### <脚部（フットレッグサポート）>

- しっかりと固定されていますか？
- 左右の高さや角度は同じですか？
- ステップ板がパタパタしていませんか？
- キズや亀裂等はありませんか？

### <全体的に>

- ガタつきはありませんか？
- まっすぐに走りますか？
- 各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
- 背折れ金具がしっかりと固定されていますか？
- 背クッション、座クッションがしっかりと取り付けられていますか？
- ワイヤーやシートベルトが部品等に引っかかっていませんか？

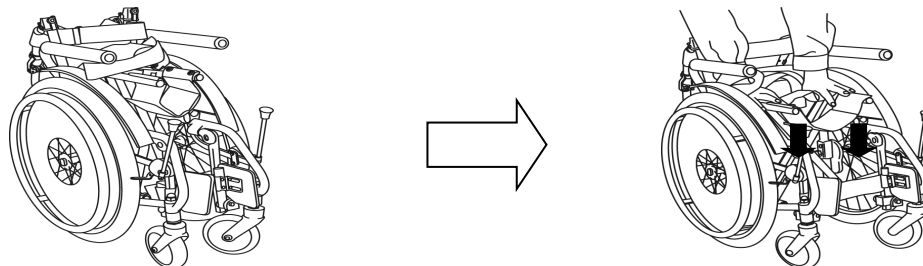
### <介助者へ>

- 長期間の使用や使用頻度によっては、キャスト車輪、脚部、肘掛け等の劣化がすすむことがあります。使用前点検を励行してください。異常がある場合は、使用を中止してください。
- 次のような場所では必ず介助者が付き添い、利用者の身体を支えるなど転倒防止に努めてください。
  - 急な坂道
  - 凹凸や段差のある場所
  - 踏み切りの横断、エレベーターの乗り降りなどの溝のある場所
  - その他危険が考えられる場所
- 車いすに乗って介助しないでください。
- 利用者の身体の一部（手や足）及び衣服が、タイヤに触れたり挟まったりしないよう注意してください。
- 利用者の身体の一部（手や足）及び衣服が、建物、通行者及び地面に触れたり挟まったりしないように注意してください。
- 車いすに重い荷物を載せたり、押手に提げたりしないでください。

## 5.車いすの拡げ方・たたみ方

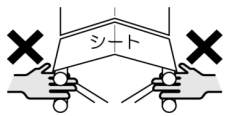
### 車いすの拡げ方

①左右に拡げます。



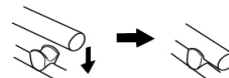
駐車ブレーキをかけ、車いすの後方か前方に立ち、シートパイプ部分を上から手で少し押し下げます。

### ⚠ 注意



シートパイプの横や下に手や指を置かないでください。

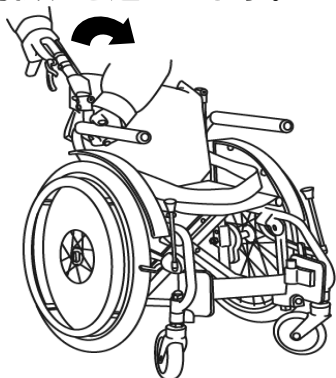
挟まってケガをする恐れがあります。



背ベースシートが張りすぎていないことを確認し、シートパイプをシート受けに確実に入れてください。

フレームが変形して、事故の原因となります。

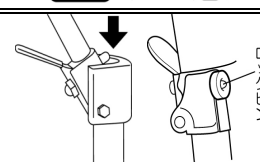
②背折れを起こします。



車いすの押手部分を持ち、上方（矢印の方向）へ引き起こすように持ち上げてください。

※このとき、駐車ブレーキを使用するか、片側の手で車いすが動かないように支えてください。

### ⚠ 注意

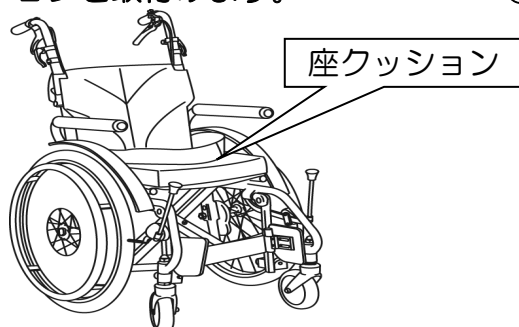


↓部分に手や指を置かないでください。

挟まってケガをする恐れがあります。

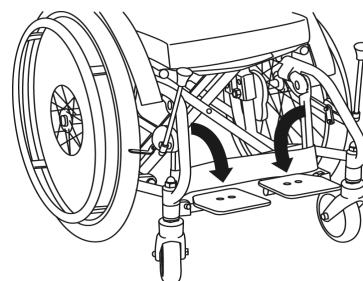
ロックピンが完全にロックされている事を確認してください。

③座クッションを取付けます。



座クッションを取り付けます。  
(出荷時には取り付けられていません。)

④ステップ板を倒します。



ステップ板を内側に倒します。

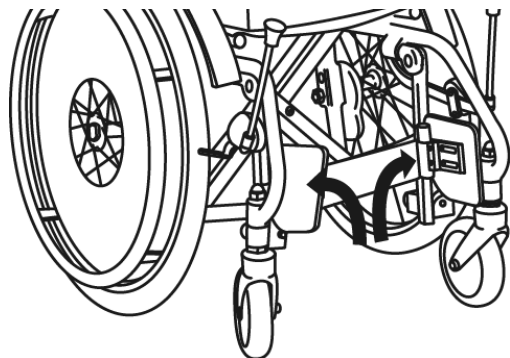
### ⚠ 警告

●ステップポストの高さは地面より5cm以上でご使用ください。  
低すぎると凸凹路面や障害物にステップ板があたり、転倒する恐れがあります。



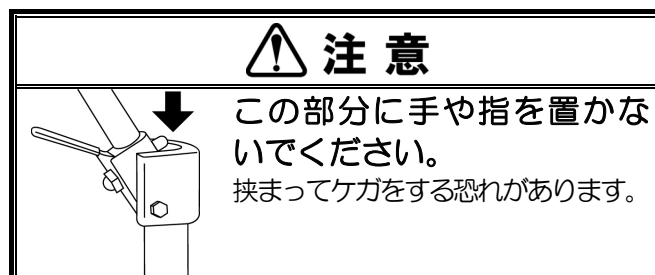
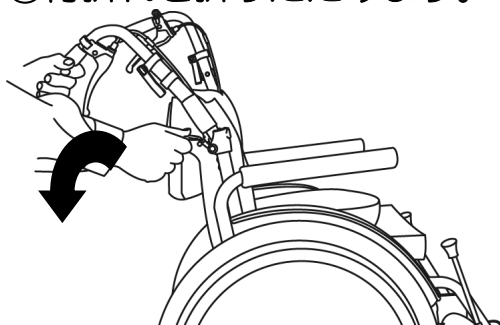
## 車いすのたたみ方

- ①座クッションを外します。
- ②ステップ板を跳ね上げます。



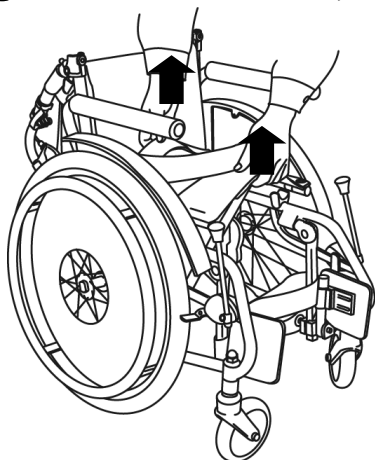
駐車ブレーキをかけ、ステップ板を閉じるように上方へ（矢印の方向へ）跳ね上げます。  
※ステップ板を内側にたおした状態のままだと、折りたたみが出来ないので、ステップ板が上方へ上がっていることを確認ください。

- ③背折れを折りたたみます。

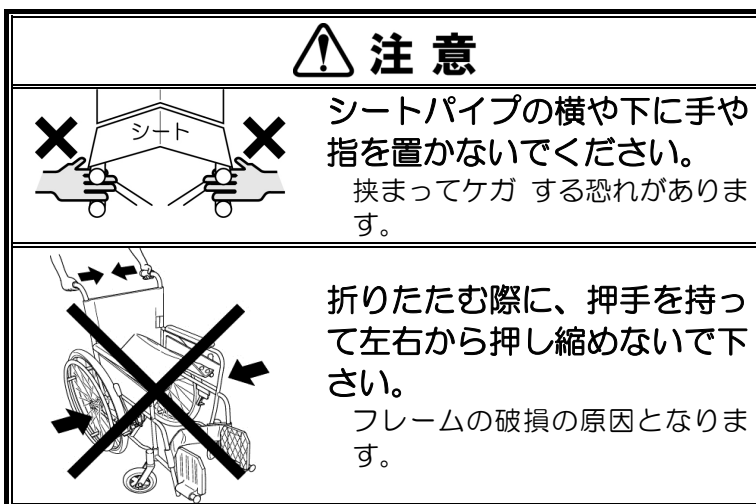


押手を握り、一方の手で背折れ金具のレバーを後方へ引きながら（もしくは前方へ倒しながら）押手を倒します。また、反対側も同様に倒してください。

- ④シートを折りたたみます。

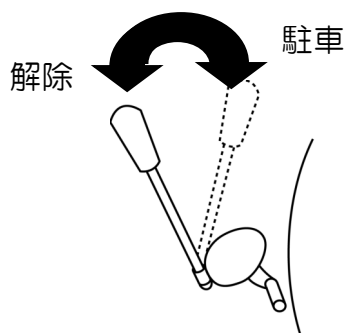


座シート前方と後方の中央部を同時に持ち上げます。



## 6.ブレーキの使用法

### ★駐車ブレーキ



ブレーキレバーを後方に引くとロックし、レバーを前方に倒すと解除されます。

※車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。

### ⚠ 注意

- 車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。
- 後車輪の空気圧にご注意ください。  
空気入タイヤ仕様の車いすをご使用の場合、空気圧が低すぎるとブレーキの効きが悪くなります。目安として、タイヤを手で押してやや硬い程度(軟式野球ボール程度の硬さ)に空気を入れてください。
- 傾斜地や平坦でないところでは駐車しないでください。  
傾斜地や滑りやすい床面では駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があります、大変危険です。
- 駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。  
また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。
- 駐車ブレーキは必ず手で操作してください。  
足などで操作するとブレーキが破損する恐れがあります。



### ★介助ブレーキ（バンド式）

走行中や下り坂での制動ブレーキとしてご使用ください。



ブレーキレバーを握ると制動ブレーキがかかり、離すと解除します。

### ⚠ 警告

- ブレーキの効き目が強すぎたり弱すぎるときは、すぐに販売店にご相談ください。
- ブレーキワイヤーは1年に1度、定期的に交換してください。
- ブレーキレバーは介助者の方が必ず両方同時に掛けてください。
- 坂道を下るときは後ろ向きで走行してください。  
坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。



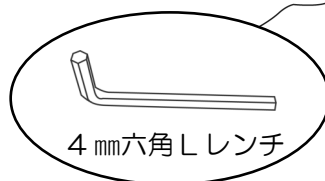
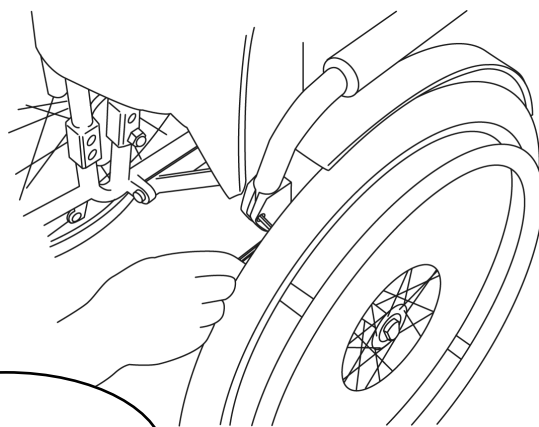
## 7.肘掛け(アームサポート)の調整方法

### ★高さを調整するとき

肘掛けの高さを無段階で調整できます。

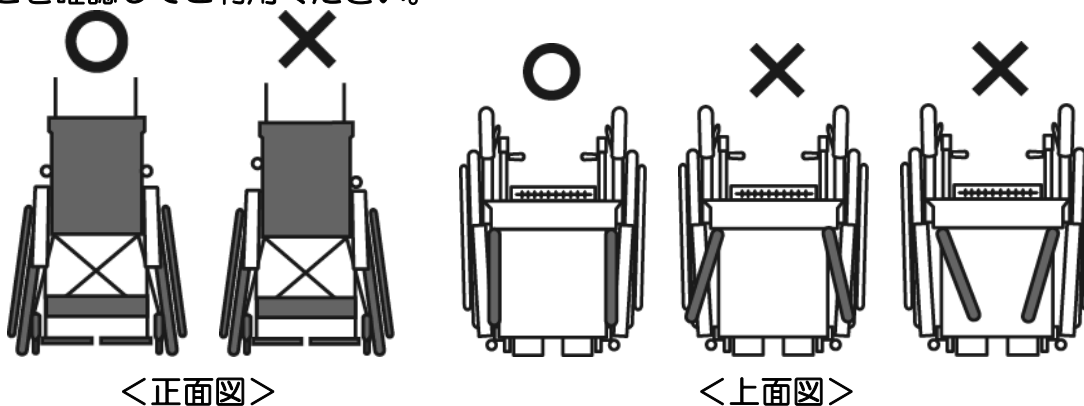
- ① 駐車ブレーキをかけます。
- ② 付属の 4 mm 六角 L レンチでボルトを緩めください。
- ③ 肘掛けの高さを調整します。
- ④ 付属の 4 mm 六角 L レンチで②で緩めたボルトを締めます。

※ご利用前には、必ず肘掛けが固定されていることを確認してください。



### ⚠ 警告

- 調整は必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。  
調整操作中、車体が動く場合があります、危険です。
- 調整後は肘掛けがしっかりと固定されていることをご確認ください。  
調整ピンが調整穴に確実に収まっていないと、体重をかけたとき急に肘掛けが下がるなどの危険があります。
- 肘掛けは左右同じ高さでご利用ください。また、肘掛けが外側や内側を向いていないことを確認してご利用ください。

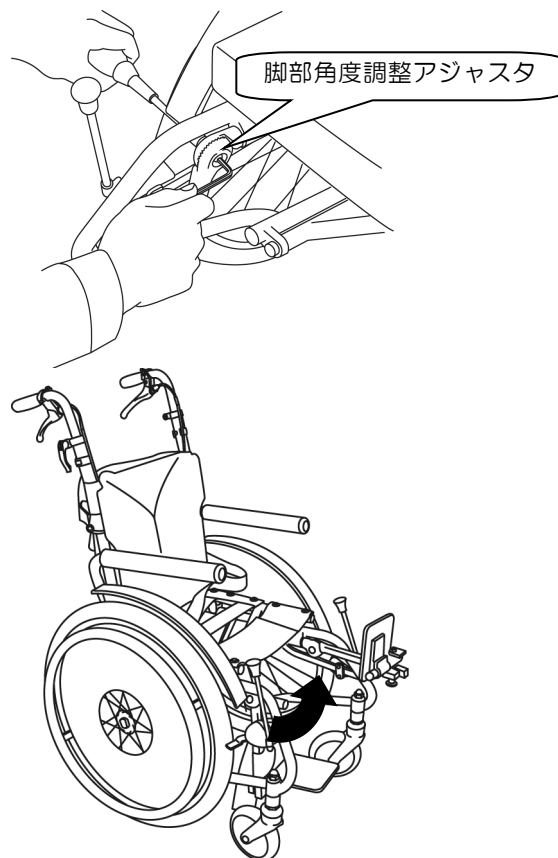


- 肘掛けを調整するときは、手や指・衣服等を挟まないように注意してください。

## 8.脚部(フットレグサポート)の調整方法

### ★角度を調整するとき

- ① 駐車ブレーキをかけます。
  - ② 10 mmボックスレンチと 4 mm六角 L レンチで脚部角度調整アジャスターのボルトを緩めます。
  - ③ 脚部の角度と調整します。
  - ④ 10 mmボックスレンチと 4 mm六角 L レンチで②で緩めた脚部角度調整アジャスターのボルトをしっかりと締めます。
- ※このとき、しっかりと脚部が固定されていることを確認してください。緩んでいると、思わぬ事故の原因となります。



### ⚠ 警告

- 調整は必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。  
調節操作中、車体が動く場合があります、危険です。
- 調整後は脚部がしっかりと固定されていることをご確認ください。
- 脚部を調整するとき、手や指、衣服等を挟まないように注意してください。

### ⚠ 注意

- 車いすを持ち上げる場合、駐車ブレーキをかけ、固定されているパイプをしっかりと支えてください。

※肘掛けを持たないでください。  
※脚部を持たないでください。  
※背シートを持たないでください。  
これらの箇所を持ち上げると、脚部や肘掛け等が車いすから外れるなど、大変危険です。

※利用者が乗ったまま持ち上げる場合は、シートベルトをしっかりと締め、3人以上でフレーム前下部とティッピングレバーを持ってしっかりと支えてください。利用者の身体の一部を持たないでください。

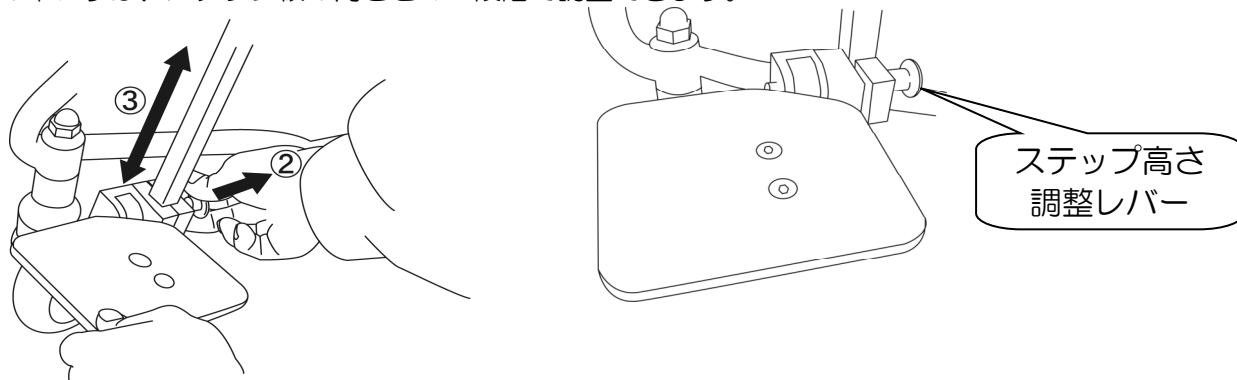




## 9.ステップ板(フットサポート)の調整方法

### ★ステップ板の高さ調整方法

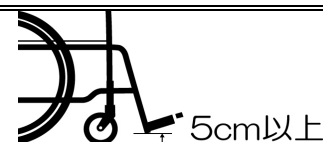
この車いすは、ステップ板の高さを 10 段階で調整できます。



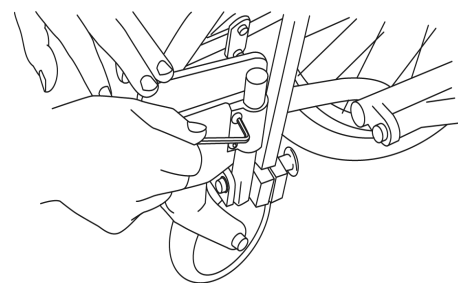
- ① 駐車ブレーキをかけます。
  - ② ステップ高さ調整レバーを後方に引きます。
  - ③ ステップ高さ調整レバー部を引いたまま、ステップ固定部を持って上下させます。
  - ④ お好みの高さでステップ高さ調整レバーから手を離します。
- ※調整レバーがしっかりと収まっていることを確認してください。

### 警告

- ステップの高さは地面より 5cm 以上でご使用ください。  
低すぎると凹凸路面や障害物にステップ板があたり、転倒する恐れがあります。

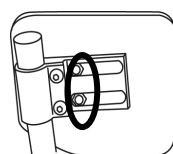


### ★ステップ板の角度・左右位置調整方法



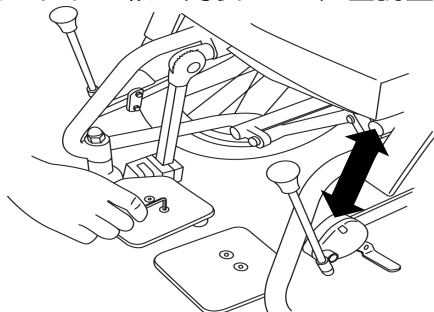
付属品の 4 mm 六角 L レンチを使って、ステップ板の裏側のボルトを緩め、適当な高さに合わせた後、ボルトを完全に締めてください。

※この際、しっかりとボルトを締めてください。緩むと事故の原因になります。



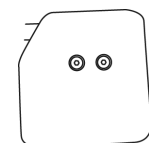
- ① 左図のボルト 2 本を緩めます。
- ② キャスタ、地面との干渉に注意しながら角度を調整します。
- ③ ボルト 2 本を締め、ステップ板を固定します。

### ★ステップ板の角度・左右位置調整方法



付属品の 4 mm 六角 L レンチを使って、ステップ板の表側のボルトを緩め、適当な位置に合わせた後、ボルトを完全に締めてください。

※この際、しっかりとボルトを締めてください。緩むと事故の原因になります。

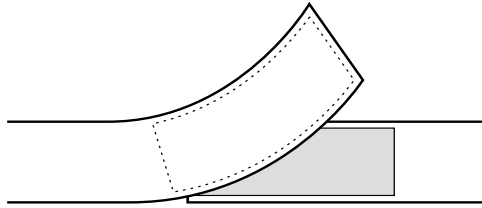


- ① 左図のボルト 2 本を緩めます。
- ② キャスタとの干渉に注意しながら前後に調整します。
- ③ ボルト 2 本を締め、ステップ板を固定します。

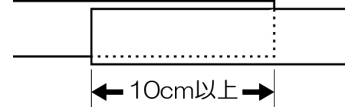
### 警告

- 調整は必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。  
調整操作中、車体が動く場合があります、危険です。
- 調整後はステップ板がしっかりと固定されていることをご確認ください。
- ステップ板を調整するとき、手や指、衣服等を挟まないように注意してください。

## 10.シートベルトの使用法



車いすに深く腰掛け、面ファスナーの接着部分を10cm以上重ね合わせてしっかりと留めてください。

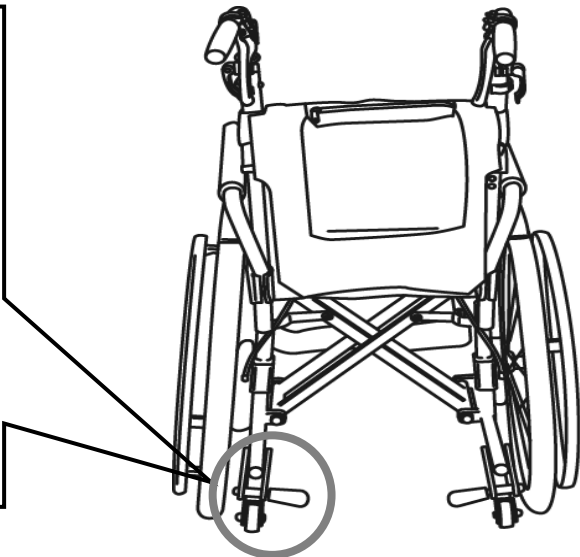
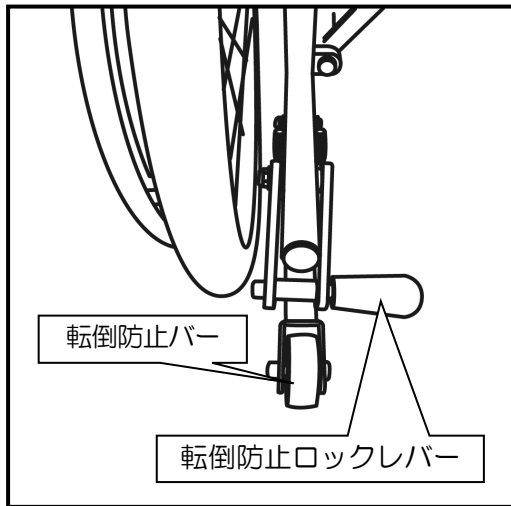


### ⚠ 注意

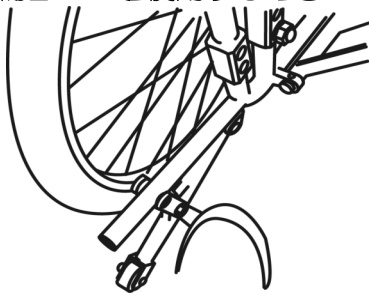
- シートから落ちるおそれがあるので必ずシートベルトを使用してください。  
段差などで不意に衝撃を受けると身体が投げ出される場合があります危険です。また、シートベルトを外したまま移動するとベルトが車輪にからまるなど危険です。
- 面ファスナーに糸くず・汚れなどがついたときは取り除くか、シートベルトを交換してください。  
接着力が弱まり、事故の原因となります。  
※面ファスナーの接着力が弱くなった場合、シートベルトの交換が必要です。



## 11.転倒防止バーの使用法



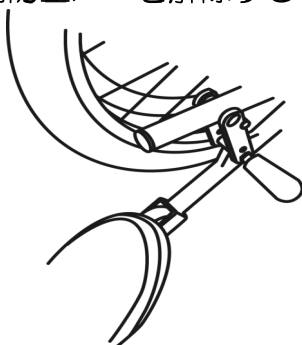
### ★転倒防止バーを使用するとき



転倒防止ロックレバーを下方向へ踏んでください。

※転倒防止バーを使用する際には、必ず左右同時にご利用ください。片方みの使用の場合、片側に傾き大変危険です。

### ★転倒防止バーを解除するとき



転倒防止バーを下方向へ軽く踏んでください。

★転倒防止に充分配慮してください。

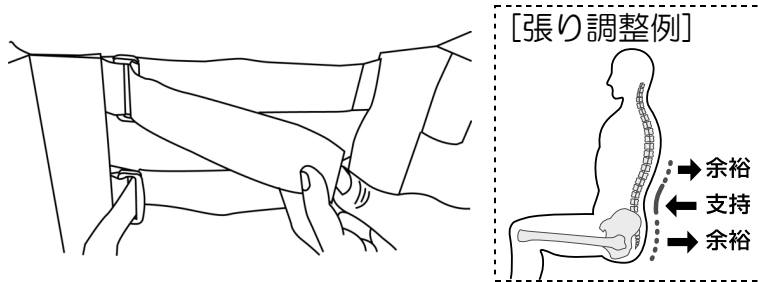
## 12.背シートの調整方法

この車いすの背ベースシートは利用者の方の体型に合わせて調整できます。一番楽な姿勢が保持できるように調整してください。

①背クッションを取り外します。

②調整ベルトの面ファスナーを外し、適当な長さに合せます。

(部位によって張り具合を調整してください。)



<b>⚠ 注意</b>
利用者が車いすに乗っている状態では、全ての面ファスナーを一度に外さないでください。転倒する恐れがあり、大変危険です。

③背クッションを取り付けます。

背クッションは、リバーシブルになっています。お好きな色でご利用ください。

<b>⚠ 注意</b>	
<ul style="list-style-type: none"><li>●ベースシートを調整する際、強く張りすぎないようにご注意ください。<ul style="list-style-type: none"><li>※座ベースシートを強く張りすぎるとシートパイプ受けにシートパイプが収まらなくなる場合があります。</li><li>※背ベースシートを強く張りすぎると背パイプが中央に寄ってしまい、背もたれ幅が狭くなってしまいます。また、フレームの変形の原因にもなります。</li></ul></li><li>●面ファスナーに糸くず・汚れなどがついたときは取り除くか、交換してください。<ul style="list-style-type: none"><li>手入れをしないと接着力が弱まり、事故の原因となります。</li><li>※面ファスナーの接着力が弱くなった場合、シートベルトの交換が必要です。</li></ul></li></ul>	

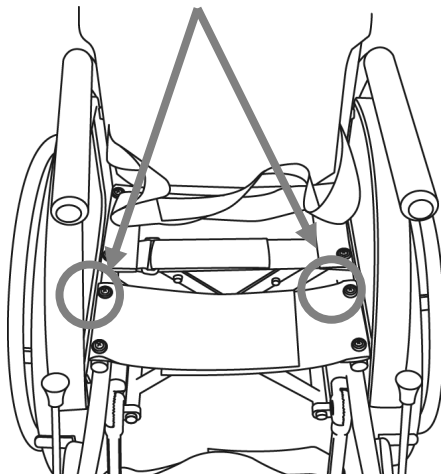
## 13.シート奥行き調整方法

この車いすの座面の奥行きを 38~42 cmの 3 段階で調整できます。

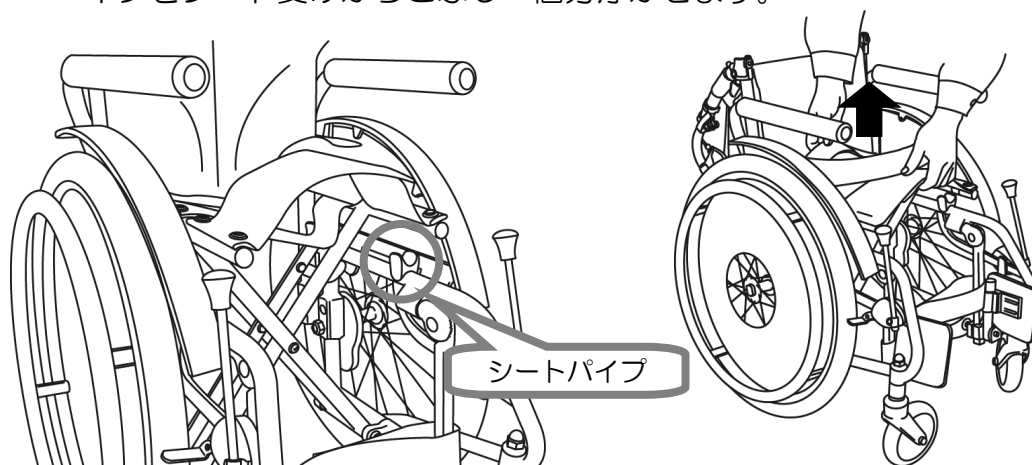
①座クッションを取り外します。

②座ベースシートの前部分を外します。

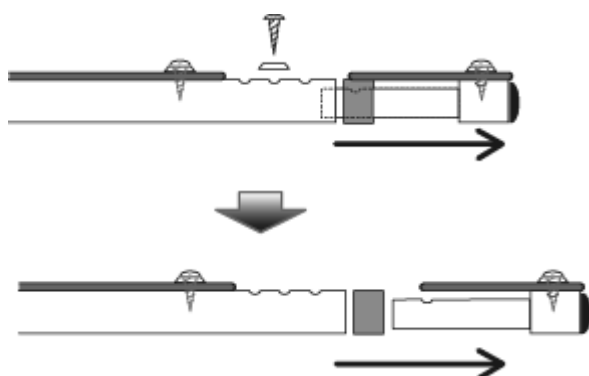
②-1 座ベース前シートを取り付けているネジの前方から 2 本目を緩めて外します。  
(左右 1 箇所ずつ、合計 2 箇所)



②-2 座ベース前シート前方と後方の中央部を同時に引き上げ、クロス金具のシートパイプをシート受けからこぶし一個分浮かせます。

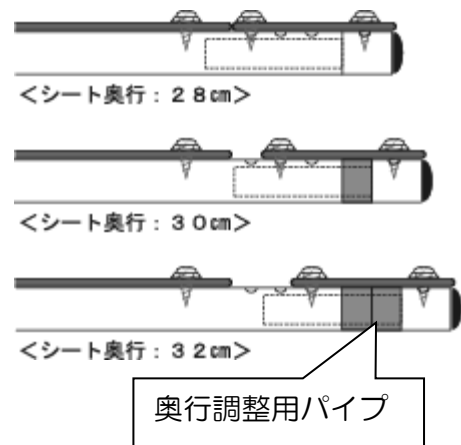


②-3 シートパイプの先端部を抜き取ります。



③奥行調整用パイプの入れ込み個数で、シート奥行きを調整します。

シート奥行	奥行調整用パイプ (片側)
28cm	0本
30cm	1本
32cm	2本



④シートパイプの先端を戻して固定します。

④-1 抜き取ったシートパイプの先端を、シートパイプ本体に戻します。

④-2 シートパイプの先端部とシートパイプ本体の穴を合わせ、ネジを締めて固定します。

～締付トルクの目安 4.2N・m (42Kgf・cm)～

⑤座クッションを元に戻します。

座クッションは、リバーシブルになっています。お好きな色でご利用ください。

**⚠ 注意**

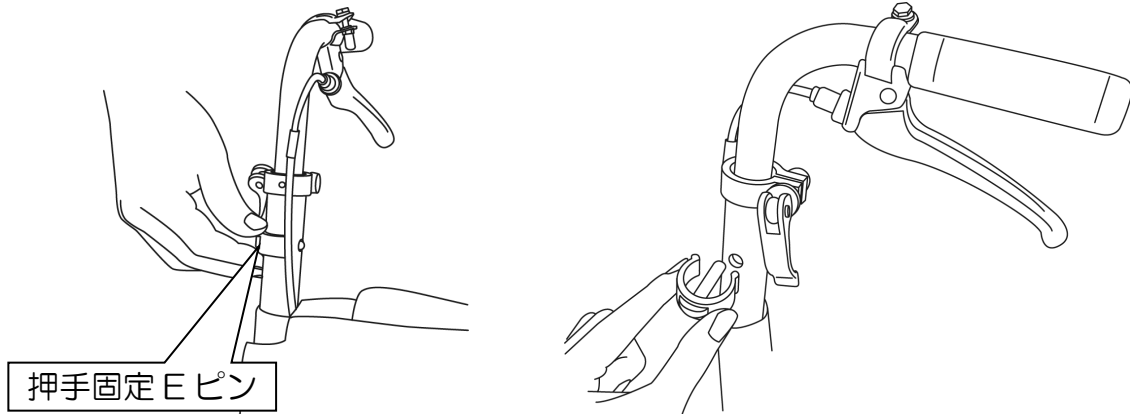
- ご使用の際には、必ずシートパイプが固定されていることを確認してください。万が一、緩んでいると、思わぬ事故の原因となります。
- 奥行調整用パイプは、紛失しないように保管してください。
- シート奥行きは、左右同じ長さにしてください。左右の奥行きが違うと、フレームが歪み、破損やケガの原因になります。

## 14. 押手高さの調整方法

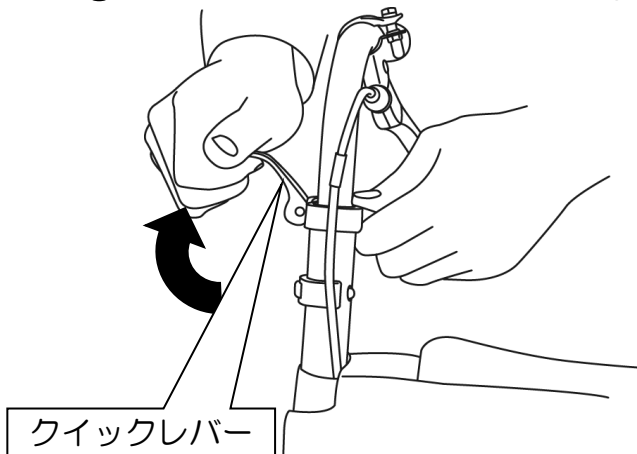
この車いすは、介助者が押す際に楽な押手高さに3段階で調整できます。

①背クッションを取り外します。

②押手固定Eピンを外します。

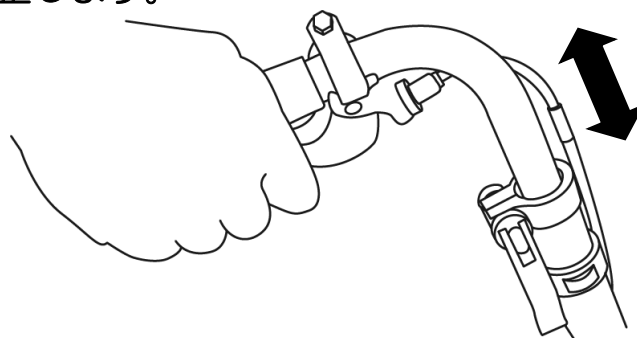


③クイックレバーを引き上げます。

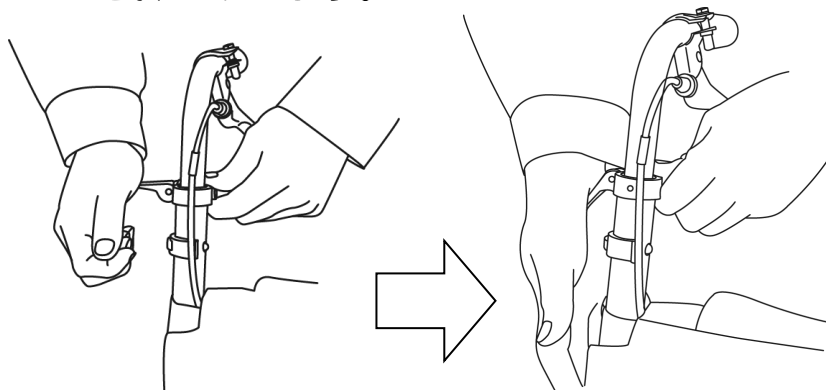


片手でクイックレバーを、もう片方の手でクイックレバーの反対側をしっかりとにぎり、クイックレバーを引き上げてください。

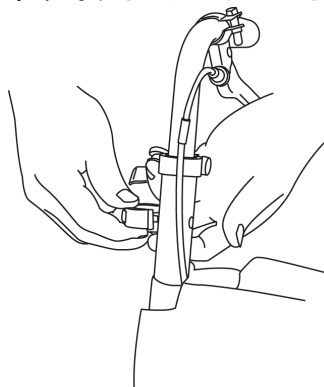
④押手の高さを調整します。



⑤クイックレバーを押し下げます。



⑥押手固定 E ピンを差し込み、押手を固定します。



### ⚠ 警告

- 調整は必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。  
調整操作中、車体が動く場合があります、危険です。
- 調整後は押手がしっかりと固定されていることをご確認ください。  
クイックレバーや押手固定 E ピンでしっかりと固定されていないと押手がぐらつく場合があります、危険です。
- 押手(を調整するとき、手や指、衣服等を挟まないように注意してください。

## 15.その他各部の調整

この車いすには、ご利用者の体型や症状に合わせて以下の調整機能があります。  
調整については専門業者に作業をお願いしてください。

- 座面高さ（前座高・後座高）  
2段階(前座高 40.5・43cm)で調整できます。
- 後車輪の前後位置  
前後位置 2 段階で位置を変更できます。  
後車輪の位置変更に伴い、泥除け取付位置を変更できます。

### ⚠ 注意

- 調整については必ず専門業者に作業をお願いしてください。
- 調整後は、ネジがしっかりと締まっているか、ご確認ください。

## 16.お手入れの方法

### ★金属部分（フレーム、車輪等）

フレームなどの金属部は、乾いた布でよく汚れを落として、自動車用のワックスをかけ、乾いた布で拭き取ってください。スポークの通常のお手入れは、水を用いずに汚れを落とす程度で充分です。凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れは、市販の中性洗剤を用いてください。

### ★樹脂（プラスチック）部

樹脂（プラスチック）部品には、市販の中性洗剤をご使用ください。

### ★クッション、シート類

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。市販されている防水加工用のスプレーなどを用いての防水加工をお勧めします。防水加工を行う場合は、ご使用になる防水加工用商品の説明書をよくお読みください。

#### <汚れがひどいとき>

- 汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後、水で濡らした布で洗剤を拭き取ってください。
- しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。
- 洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。
- クッション表面に面ファスナー（オス）が接触しないようにしてください。（クッション生地ほつれ、けばだちの原因となります。）

### ⚠ 注意

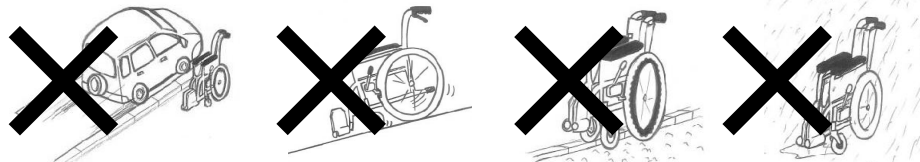
- 熱湯やオゾンで洗浄しないでください。  
故障・変質・変色の原因となります。
- 中性洗剤以外を使用しないでください。  
中性洗剤以外を使用した場合変質・変色・傷みの原因となります。
- シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。  
変質・変色・傷みの原因となります。
- たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。  
傷みの原因となります。

## 17.保管についてのお願い

車いすは、お手入れ後、安全な場所に保管してください。

### ⚠ 注意

- 下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。
  - ・車道に近いところ
  - ・路面に段差や凸凹のあるところ
  - ・海沿いの屋外（潮風の当たるところ）
  - ・非常口、消火器、消火栓の前
  - ・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
  - ・子供がいたずらをする恐れのある場所
  - ・人通りのあるところ
  - ・湿気の多いところ
  - ・雨、風のあたる場所
  - ・直射日光の当たる場所（車内も含む）
  - ・坂道
  - ・暑い日や寒い日の戸外
  - ・ほこりの多い場所





# 18.車いすの保守・点検

## 1ヶ月に一度は安全点検を行ってください!!

### ■タイヤに空気は充分入っていますか？



空気入タイヤをご使用の場合は、空気圧にご注意ください。

タイヤの性質上空気は自然と減っていきます。1ヶ月に1回は空気を入れてください。

英式バルブはタイヤ内圧を測定できない構造となっており※1、下の適正空気圧は当社標準装備の虫ゴム付バルブを使用した場合の推奨空気圧となっております。スーパー虫ゴム、楽々バルブなど他のバルブに交換した際は下表の値が適正にはなりませんのでご注意願います。

なお適正空気圧は、バルブ付近もしくはタイヤの側面に記載されています。空気圧が低すぎると駆動が重くなり、そしてブレーキの効きが悪くなります。また空気圧が高すぎると破裂の原因となります。

[適正空気圧]

24×1 3/8 : 400kPa	22×1 3/8 : 460kPa	22×1 : 700kPa
20×1 3/8 : 490kPa	18×1 3/8 : 460kPa	16in 以下一般 : 360kPa

[目安]

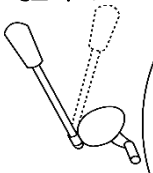
タイヤを手で押してやや硬い程度(軟式野球ボール程度の硬さ)に空気を入れてください。

[注意] ※1 弊社の車いすに使用している「英式バルブ」は、自動車用等に使用している米式バルブと違い、チューブ内の空気圧を圧力ゲージによって測定することが構造上できません。(英式バルブは空気が一方的に入るだけで漏出させることができない構造になっており、圧力ゲージでの圧力測定ができません。)正しく空気圧を管理していただくため、空気を入れる際は『圧力ゲージ付空気入れ』をご使用いただき、その圧力ゲージを目安に上記適正空気圧に合わせてお使いください。

### ■タイヤの溝は充分認識できますか？

タイヤの減りが激しいものはパンクの原因になったり走行性やブレーキの効きが悪くなるので交換が必要です。また、タイヤやキャストのひび割れにもご注意ください。

### ■駐車ブレーキはしっかり効きますか？



タイヤの空気圧が下がると駐車ブレーキの効きが弱くなります。

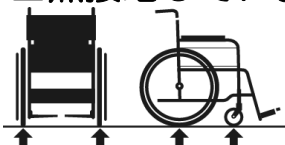
空気圧のチェックとともにブレーキの取付ネジの緩み、ブレーキ本体のガタなどがいないかご確認ください。もし、異常がございましたら、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

### ■変な音がしませんか？

変な音がする場合、どこでその音が発生しているかをご確認してください。ブレーキワイヤーが車輪に擦れている、ベアリング部の油分が不足しているなどの原因が考えられます。

お買い上げの販売店までご連絡ください。

### ■四点接地していますか？

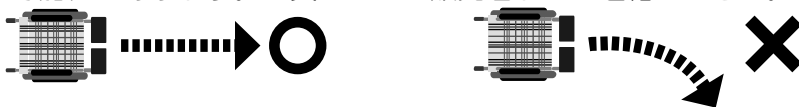


前輪二輪と後輪二輪が接地しているかご確認ください。

四点接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。直ちにお買い上げの販売店までご連絡ください。

### ■まっすぐ進みますか？

平地で車いすを左右均等な力で押してください。自然に曲ってしまう場合、どこかが歪んでいる可能性があります。お買い上げの販売店までご連絡ください。



### ■シートに破損やたるみ、傷みはありませんか？

湿気の影響を受けたり長時間続けてご使用になるとシートに破損・たるみが発生します。座り心地を損なわない姿勢が保ちにくくなりますので、たるみ・破損が著しい場合は交換をおすすめします。

### ■ネジの緩みはありませんか？

ガタがある場合は、ネジの緩みや脱落が考えられます。直ちにご使用を中止し、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

## 異常が見つかったらご使用を中止してください。

### ★きちんと折りたためますか？



折りたたみに異常がある場合、ネジの緩みや可動部分の油切れが考えられます。お買い上げの販売店までご連絡ください。

### ★車輪やキャスタはしっかり固定されていますか？

車輪を留めているボルト、キャスタを留めているボルトは緩んでいませんか？緩んでいると使用中突然車輪やキャスタが外れて転倒するなど大変危険です。お買い上げの販売店までご連絡ください。

### ★ハンドリムはしっかり固定されていますか？

ハンドリムにガタがある場合、取り付けネジの緩みが考えられます。お買い上げの販売店までご連絡ください。

### ★介助ブレーキはしっかり効きますか？

介助ブレーキがスムーズに作動すること、しっかりと効くことをご確認ください。異常がある場合は、お買い上げの販売店までご連絡ください。

### ★ブレーキワイヤーは切れていませんか？

ブレーキワイヤーは切れていませんか？ブレーキが効かなかったり、事故の原因になります。安全のため、1年に一度はワイヤーを交換してください。

### ★洗浄の際には、水、お湯または中性洗剤をご使用ください。

- ・ 中性洗剤以外の洗剤を使用しないでください。
- ・ シンナーやベンジン・アルコールなどの揮発性のものは使用しないでください。
- ・ たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。
- ・ オゾン消毒はしないでください。ゴム材料の収縮などの原因になります。変質・変色・傷み・割れの原因となります。

### ★リクライニング及びティルティングの操作が著しく悪くなっていませんか？

ガススプリングが劣化しているおそれがあります。すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

## ⚠ 注意

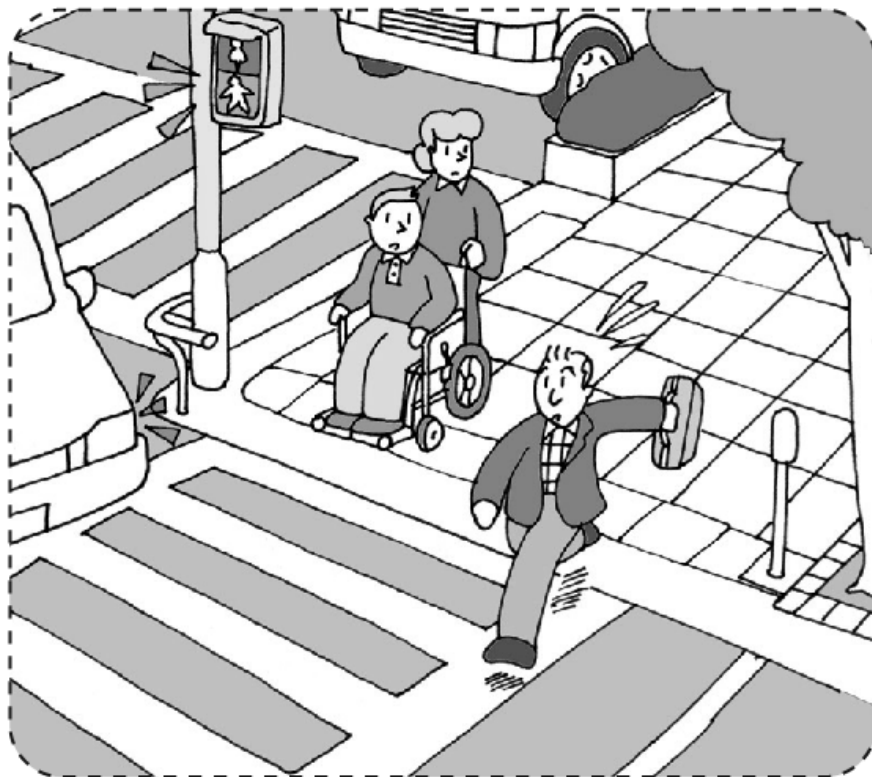
- スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。
- 異常が見つかったら、直ちにご使用を中止してください。

## 19.車いすの主な乗り方

### 警告

- タイヤの空気が充分入っているか確認しましょう。
- 下り坂は加速がつき危険です。いつでもブレーキがかけられるよう慎重に。
- いきなり公道に出るのは危険です。屋内や庭など安全な場所で練習しましょう。
- 車道はできるだけ通らず、歩道や十分な幅のある路側帯を通りましょう。

車いすは歩行者として取り扱われます。  
歩行者としての交通ルールを守りましょう。



- 「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」のマークのある歩行者専用道路も通ることができます。
- 信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。「青」信号を待ちましょう。

★焦らずゆとりを持った横断、走行を心掛けましょう。

### 注意

- 車いすは、乗り物ですから、定期点検が必要です。  
長期の使用によって劣化が生じます。異常が発生した場合は、直ちに使用を中止してください。

## ★移乗

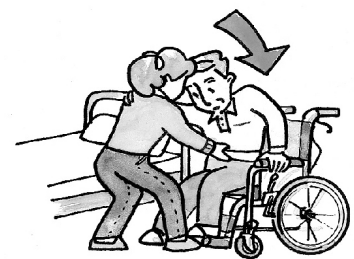
車いすに乗る方を介助者がベッドなどから移す方法です。双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。



介助者が片足を相手の膝の間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がらせます。



介助者の膝で相手を支えながら、車いすの方へお尻を向けます。



ゆっくりと腰を下ろしてもらいます。

※「いち、にの、さん」と声をかけながらおたがいに協力しましょう。

## ★外出

車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”と“シートベルト着用”が基本です。

### [坂道]



<上り坂>

押す人は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します



<下り坂>

坂を下るときはブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。また、シートベルトを必ずご利用ください。

### [段差のある場所]



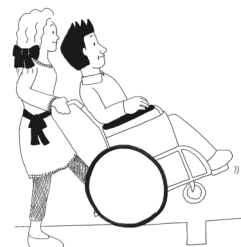
<上がるとき>

ティッピングレバーを踏んで前車輪を上げて進み、続いて後車輪を押し上げます。

<下るとき>

後ろ向きでまず後車輪をおろし、ティッピングレバーを踏んで前車輪を上げたまま後進し、ゆっくりと下ろします。※階段では車いす全体を持ち上げてください。

[溝越え] ※予め溝の大きさを確認し安全に渡れる場合のみ実施してください。

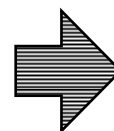


①「キャスト上げ」の要領でティッピングレバーを踏んで押手を押し下げ、キャストを上げます。

※この時、必ず声をかけてから行ないます。



②キャストを上げたまま前に進み、溝を越えた向こう側にキャストをゆっくり下ろします。



③次に後車輪を持ち上げて前に進み、溝を完全に越えたところでゆっくりと後車輪を下ろします。

## 20.仕 様

<各部寸法>.....記載の寸法や重量は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

標準仕様・規格

品名・名称		H	L
座幅	(mm)	280 / 300 / 320	
前座高さ	(mm)	430	405
脚部長さ	(mm)	190 ~ 260	
後座高さ	(mm)	410	390
シート奥行き	(mm)	300 / 280 / 320	
背もたれ高さ	(mm)	340	
肘掛け高さ	(mm)	225 ~ 270	
全高	(mm)	890 / 910 / 930	865 / 885 / 905
折りたたみ	(mm)	610	580
全幅	(mm)	560 / 580 / 600	
折りたたみ	(mm)	340	
全長	(mm)	700	
折りたたみ	(mm)	800	
重量	(kg)	15.0 kg	
使用者最大体重		75kg	

<各部仕様>.....

標準仕様・規格

		AYCMシリーズ
フレーム		標準式フレーム 立体式クロス
折りたたみ方式		背折れ式左右折りたたみ
後輪		20 インチエア (一般) バンド式 ハンドリム:樹脂 (波型・黒)
	タイヤ	20×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub> エアータイヤ
	チューブ	20×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub> 英式バルブ
	ハンドリム	20 インチ波型・黒
前輪		5 インチ ニューソフト ナット固定式樹脂ヨーク
	キャスト車輪	5 インチ ニューソフトキャスト車輪
	ヨーク	5 インチ ナット式樹脂ヨーク
背シート		適合調整シート (リバーシブルシート)
座シート		張り調整ベースシート
	座クッション	50mm 厚 低反発クッション (リバーシブルシート)
シートベルト		面ファスナー式 黒色
肘掛け		高さ調整式
	肘当て	ウレタンスポンジ
脚部		フレキシブルタイプ
	ステップセット	位置・角度調整可能ステップ
	ステップ板	AYCM 専用ステップ
	足ベルト	標準型
駐車ブレーキ		I,ミニエッグL
	ニギリ	三角型 黒色
制動ブレーキ		バンド式
ハンドグリップ		3.反射板無し φ19 mm 黒色
SG マーク		なし
標準装備品		スポークカバー (スモークブラウン)・泥除け・転倒防止 (キャスト付)

●この車いすの後車輪のハブ軸は 1/2-20UNF のねじを使用しております。また、シート・バックサポート、主フレームのベースパイプ・ティッピングレバー部、介助ブレーキのバンドカバー部 (介助ブレーキ装着車)、背折れ金具部には十字穴付きタッピングねじを使用しております。

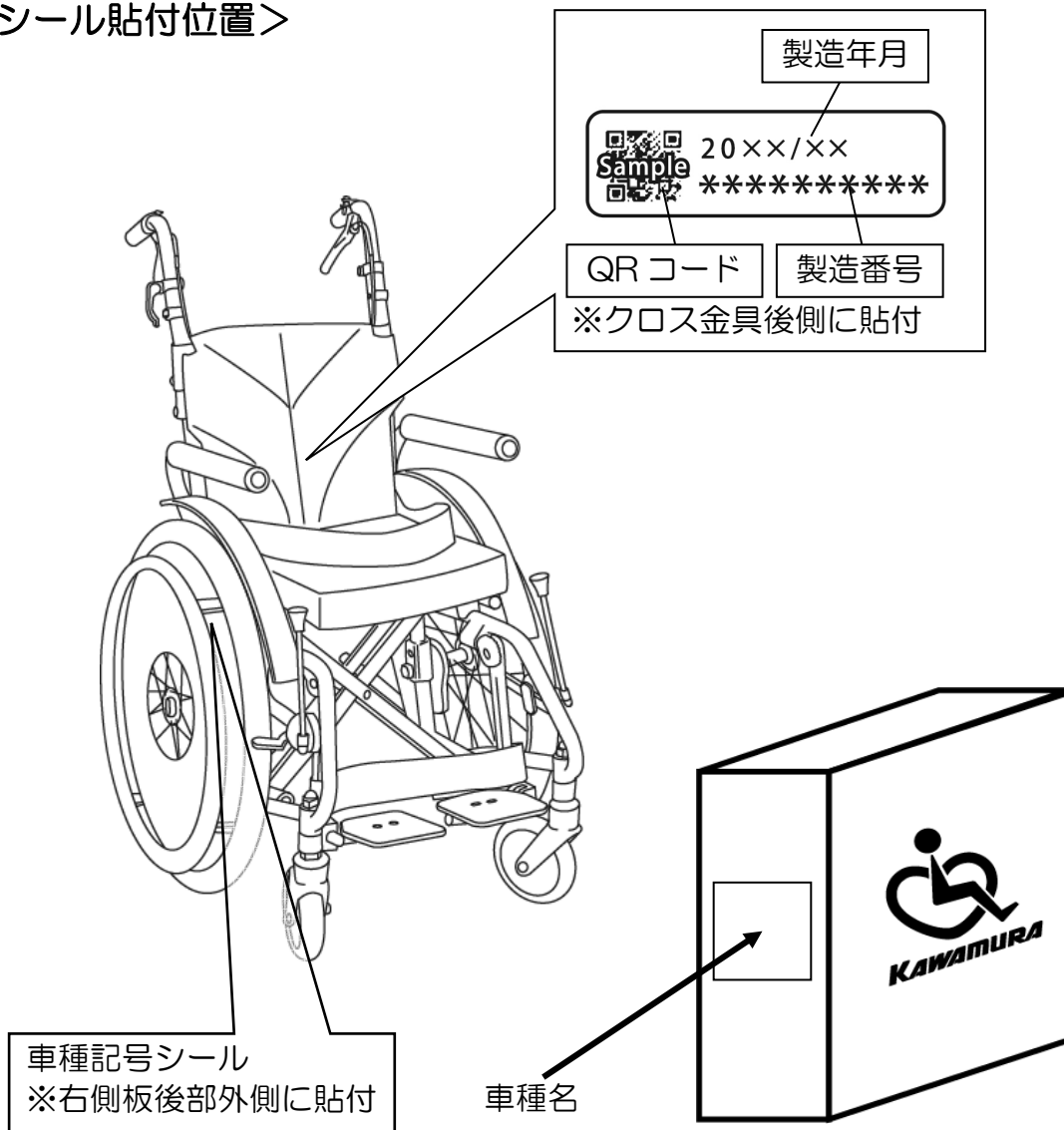
※この車いすは JIS T 9201:2006 に定める静的安定性試験において、10.1.2 a) の方法を用いて合格しております。

## 21.製品記録

アフターサービスなどを的確に受けるため、車種・製造年月を記録しておいてください。

車 種	
製 造 月	年 月

### <シール貼付位置>



## 22.保証

弊社の定める保証とは、正常な使用状態において故障が生じた場合に限り、無償にて修理を行うことをお約束するものです。

### ★保証書

この商品には保証書を別途添付しております。

返送用登録はがきに所定の事項を記入のうえ、商品購入後 1 ヶ月以内に弊社へご返送いただきご登録ください。

※ご登録がない場合は保証対象外となりますのでご注意ください。

### ★保証期間

お買い上げ日より 1 年間（消耗部品は含みません。）

### ★保証期間後

保証期間後はお買い上げの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

### ★消耗部品

- |        |       |       |             |
|--------|-------|-------|-------------|
| ・キャスト輪 | ・シート類 | ・板ばね  | ・バンドブレーキカバー |
| ・ワイヤー  | ・タイヤ  | ・チューブ | ・虫ゴム        |

### ★保証の適用除外となる場合

- ご使用による消耗および取扱不注意による破損  
例) タイヤの磨耗およびパンク、ワイヤー、シート、ステップ板の破損等
- 地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
- お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
- 保全上の不備および弊社以外で行った修理や改造等による破損
- 弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
- 一般に車いすが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損
- 製品本来の使用目的にそぐわない使用による故障および破損
- 取扱説明書に従わずに使用して生じた故障および破損
- 取扱説明書に禁じられてる使用方法によって生じた故障
- ご購入後 1 ヶ月以内に返送用登録はがきをご返送いただいていない場合
- 日本国外でご使用の場合

### ★修理のご依頼

異常がある場合は、ご使用を中止しお買い上げの販売店にご依頼ください。

### ★本製品を他人に譲る場合

この製品を他の方にお譲りになる時は、必ず本書もあわせてお渡してください。

### ★一度使用したものは、原則として製品のお取り替えはできません。

地球の環境保護のため、廃棄するときはそのまま放置しないで各自治体の取り決めにしたがってください。

×毛

A series of horizontal dashed lines for writing.



×モ

A series of horizontal dashed lines for writing.

×毛

A series of horizontal dashed lines for writing.

×モ

A series of horizontal dashed lines for writing.

## カワムラサイクル

■本社	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■東京サービスセンター	〒110-0013	東京都台東区入谷 1-8-3	TEL03-3874-3511
■名古屋サービスセンター	〒487-0027	愛知県春日井市松本町 1-3-11	TEL0568-52-4800
■本店サービスセンター	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2820
■福岡サービスセンター	〒819-0055	福岡市西区生の松原 1-18-3	TEL092-882-4722
■神戸工場 ■神戸第二工場 ■いなみの工場			

本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上の為に、一部予告なく変更することがあります。

修理・お手入れ・お取扱いなどのご相談は、まずお買い求めの販売店へお申し付けください。

・転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、上記へ。